



ぶどう特報 #1



2023年3月16日
JA 中野市営農センター
JA 中野市ぶどう部会

水上がりは平年より7日程度早い状況です。土壌乾燥等による結果母枝の枯れ込み・発芽不良・生育の不揃いが心配されます。園地の保水は早め実施してください。樹体観察を適宜行い、休眠期・発芽前の防除を適期に実施してください。

年度	巨峰発芽	シャイン発芽	特記
平年	4/26	4/30	過去10年平均値 (H25~R4)
2022年 (R4)	4/25	4/28	発芽平年並。低温で開花停滞。
2023年 (R5)	4/20頃	4/24頃	発芽平年比-7の見込み

【特別散布 (共通) ブドウトラカミキリ対策】

散布時期	粗皮はぎ後 (発芽前) *4月上旬頃		
散布薬剤	水	100ℓ	散布日: ____月 ____日 散布量: ____リットル
	展着剤(ハイテンパワー)	10 ml	
	ラビキラー乳剤(劇)	500 ml (休眠期・2回)	
散布量	300ℓ/10a		
適用病虫害	ブドウトラカミキリ		
注意事項	① 注意: 発芽後の散布は薬害が発生するため散布時期を厳守する。 ② 訪花昆虫保護のため、早朝の散布を厳守する。 ③ 晩腐病対策: ベンレート水和剤 200倍(休眠期、1回)を加用する。		

◆ 病虫害対策

① 粗皮削り

- ◆ 目的: ブドウトラカミキリ・カイガラムシ類・クビアカスカシバ等の主幹害虫対策
- ◆ 時期: 藁外し終了後 (4月上旬頃)
- ◆ 主幹害虫は基本的に粗皮下で越冬するため、休眠期防除前に粗皮削りを行い、薬剤が直接かかるようにする。

② 黒とう病・晩腐病対策

- ◆ 発病痕の除去: 巻きひげや昨年の発病を棚面から除去
- ◆ 枝管理 (芽かき・新梢整理) を徹底し、薬液や空気の通りを良くする
- ◆ 薬剤散布は予防を前提に進める
- ◆ 早期の袋かけの実施

～ 春苗の植え付けのポイントは裏面をお読みください ～

◆ 植え付け必要資材

① 堆肥の施用

- ◆ 目的①：有機質の補給（化成肥料の使用は控える）
- ◆ 目的②：土壌改良（生育促進、新根発生促進、微生物増殖）
- ◆ おすすめ資材：エアープイント、エコマッシュ、スーパー響土 等

② 木炭の施用

- ◆ 目的：通気性、透水性・保水性向上、土を柔らかくする
- ◆ おすすめ資材：もみがらくん炭、今年の枝の炭 等

③ リン酸の施用

- ◆ 目的：発根促進
- ◆ おすすめ資材：コーエーユーキリン

④ その他：スコップ、支柱、たっぷりの水（バケツ2杯分以上/1本）

◆ 植え付け方法

① 植え付け時期：4月中旬以降（地温上昇してから）～ 発芽直後まで

② 苗木は12時間以上、根を水につけこんで吸水させる。 *乾燥による枯死防止

③ 直径80～100cm、深さ30～40cm程度の植え付け穴を掘る。

④ 掘り上げた土にエアープイント等の堆肥(1/2～1/3袋)、もみがらくん炭(10kg程度)を混ぜ、半分程度を穴に戻し、穴の中心が盛り上がるようにする。 *深植え防止

⑤ 苗木の根を切り揃え、ユーキリン(1～2つかみ分)を根に付着させる。

⑥ 穴の中心に苗木を置き、根を放射状に広げて、残りの土を戻す。

⑦ 苗木の芽を3～4芽程度に切り詰め、支柱を設置し苗木を誘引する。

⑧ たっぷりとかん水を行い、植え穴が乾燥しないようマルチやワラで地面を覆う。

* エアープイント・もみがらくん炭・ユーキリンは営農資材店にて取り扱っています。

* 化成肥料を施用する場合は、定植後とする。多量の施肥は根をいためる場合があるので注意する。

